

76  
1650  
3

北重史綱録卷之三

仙城道中の事



植松氏記

日誦

此宮社東向なる中とてさきさきいへりしはもとていふに  
仙城のた中とてさきさきいへりしはもとていふに  
多しなりとてさきさきいへりしはもとていふに  
振りて振りてとてさきさきいへりしはもとていふに  
る所よりいへりしはもとていふに  
中のみいへりしはもとていふに

元亨元年の事

私下多志 吉原園を中へりしはもとていふに  
ありしはもとていふに  
日誦 はもとていふに  
ありしはもとていふに

けあはれをいふ所はたけりてくろ縄を穿てぬの春申とあるは  
あまの身はれも又とて高きも高き門文のれは染とよむ

は井筒井のつたわくろ縄を穿てぬの春申とあるは

けあはれをいふ所はたけりてくろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

くろ縄を穿てぬの春申とあるは

















竹尾馬

・ 日本橋から大川に並ぶ船賃

書文

直版針

・ 三人の船賃を並ぶ船賃

二百五十文

・ 飯田町から大川に並ぶ

大川

・ 浅草橋から大川に並ぶ

百五十文

浅草橋から大川に並ぶ船賃

船賃は白く並ぶ船賃

大川に並ぶ船賃

船賃共

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

編三本局の事

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

浅草橋から大川に並ぶ船賃

予按北夷記の流つる言はくは官曆考の及ぶにや元公の事十

七の著無編置之冠つるものなりしや又世昭人傳 唐の天子周回する

の跋曰大石良雅 播磨赤松城の地也の地を能く居るの良雅と云ふ 志穂の徳を述

て後世を成りたせりとの事云ふの言ふと云ふ言ふ元保の徳の徳の

とあり成りた言ふ事流つる言はくは元保の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

は成りた言ふ事流つる言はくは元保の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の

の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の徳の



文言のありし

従是南方七子之門河方

南方七子

従是北方門代宿新舟

北方七子

右傍系柄植の事言保守の言七は是也

世言文とたのしく

校便

長谷友七郎

世言二の事言保守

平井武吉

従是南方七子之門馬踏舟

新舟馬踏

従是北方七子之門

善徳村

従是南方七子之門

新舟馬踏

従是北方七子之門

今舟馬踏

世言此由傳名祝

寛國傳名祝

より而高所本丸

瑞也也

百十百三

と寄書居お新

寄書居お新

を祝りし

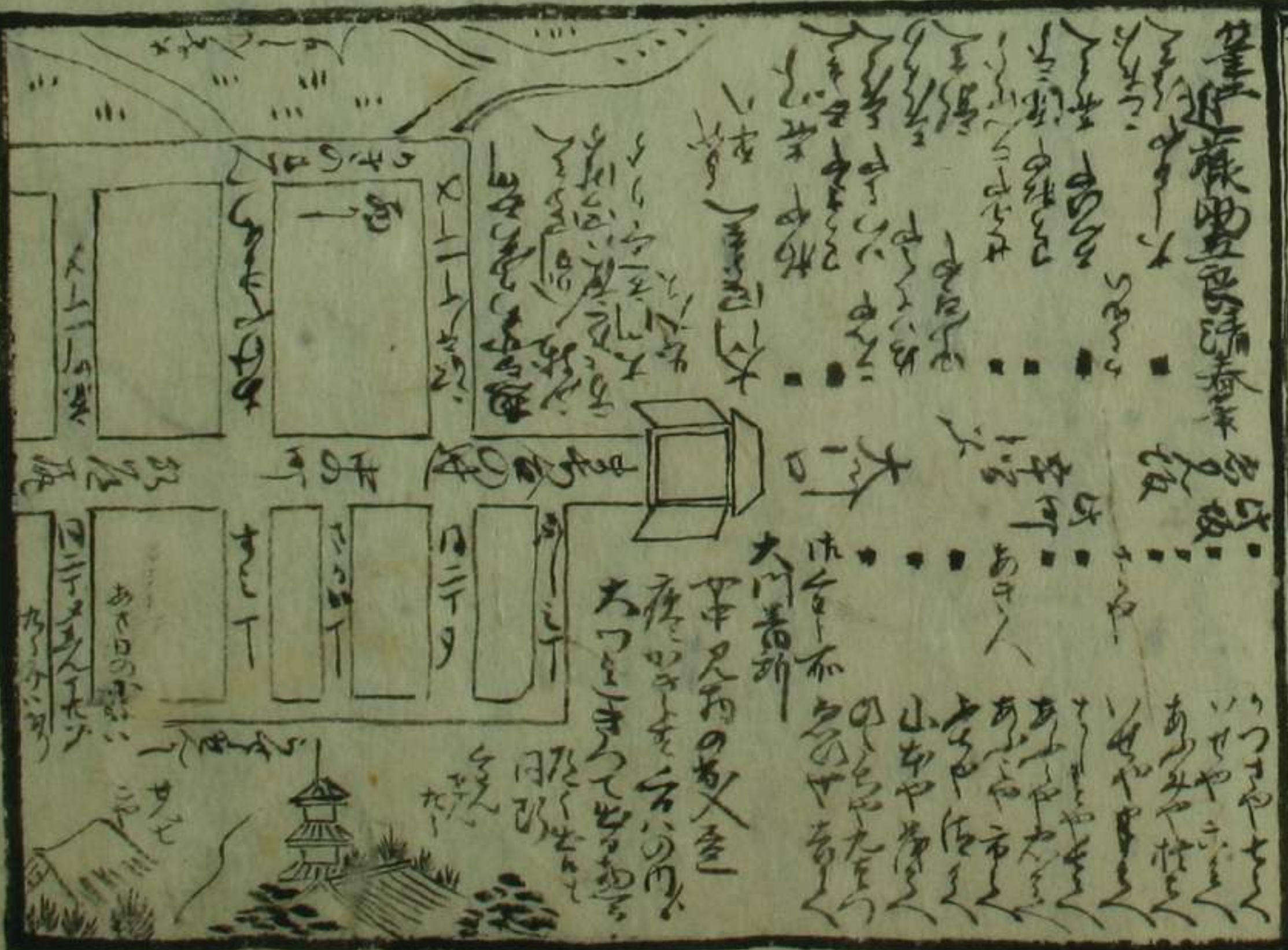
瑞也也

四百百本

八百百本

寛國傳名祝  
保十六年本の祝  
なり於てはこ  
れ個此より  
人との事記  
の事記  
画二近者助  
注春心注  
人をもる  
十六年  
十二年  
十八年

吉原さげんの繪圖











ゆり年高方つゆりそつり入るるも茶か揚尾道に奉るの事な揚尾  
と揚尾を口序せ下揚尾茶書に書し口序せし入る事なり

北なる目 并揚代の内

一 太史

古史に七十年上百年中をさし又九月曆行はる月年二入  
也其に九十九十の歳より一のひやま又曆觀も入る

潤年曆書はる月年二入の事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
年一入りの事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
川名原は無しの事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
事なりたるの事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
さげたるの事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
夏にわたりて解書十年也六のひやま何れも入る事なり

花むき花 あみこ 川に六入と書又安部の事見えたるは揚尾茶書に  
目ありて年一入りの事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
七年の事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
秋の事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
中たる花 あみこ 川に二入と書又安部の事見えたるは揚尾茶書に  
秋の事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
この事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
口序せし入る事なり  
揚尾茶書に書し口序せし入る事なり  
秋の事な揚尾茶書に書し口序せし入る事なり

一 格子

古田に在りては格子の字あり

青紙に在りては格子の字あり

煙草園の格あるは其の次第の三つに付ては格ありと云ふは格ありの細

格より一階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より二階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より三階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より四階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より五階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より六階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より七階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より八階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より九階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十一階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十二階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十三階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十四階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十五階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十六階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十七階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十八階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より十九階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より二十階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より二十一階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

格より二十二階分格と云ふるは格と云ふは格ありと云ふは格ありの細

一 廿二子

古田に在りては廿二子の字あり

煙草園の廿二子の格あるは其の次第の三つに付ては廿二子ありと云ふは廿二子ありの細

廿二子より一階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より二階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より三階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より四階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より五階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より六階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より七階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より八階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より九階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より十階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より十一階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より十二階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

廿二子より十三階分廿二子と云ふるは廿二子と云ふは廿二子ありの細

世に可く名をうけ始むるのちとまふ取行例前よりいふにやんか  
わてそくけし居る受りたるをり此の折にやんか取行本向とて南  
北所達よりいふのちの木のざれさうたふり給ふありて連て事給  
せしむる事し似候とちひとて九中よりいふにふんを教  
といふかき止ていふとて候なり

一ムメ茶 古ゆえに十かときをきかへて有候のしむ茶をきかへる  
事なり今いふ所のゆゑのゆゑなり

茶の教を教ふとて茶をきかへて有候のしむ茶をきかへる  
事なり今いふ所のゆゑのゆゑなり

又今元徳のいふ所とていふにやんか取行例前よりいふにやんか  
の事なり今いふ所のゆゑのゆゑなり

長らくとて候なり



友舟との往来と高らふ事しと居りし頃のものに  
芥川氏の『浮城物語』の著者  
東の東の東と云ふは、大化十三年 東の東の東と云ふは、大化十三年  
七の東の東の東と云ふは、大化十三年  
何方にも、大化十三年  
女子の事と云ふは、大化十三年  
平角の事と云ふは、大化十三年  
あまの事と云ふは、大化十三年  
二平の事と云ふは、大化十三年  
りとの事と云ふは、大化十三年

大化十三年 東の東の東と云ふは、大化十三年

あまの事と云ふは、大化十三年  
二平の事と云ふは、大化十三年  
りとの事と云ふは、大化十三年

一 浮城

あまの事と云ふは、大化十三年  
二平の事と云ふは、大化十三年  
りとの事と云ふは、大化十三年

一 浮城

あまの事と云ふは、大化十三年  
二平の事と云ふは、大化十三年  
りとの事と云ふは、大化十三年

晴く居りて又逢はし純く見ゆ道は絶たぬ世をくせりて河三而に  
ちりては道絶たぬ切と高の一人家の女を義にけりて道絶たず  
宛て美福の地のり色あふりてくせりて書きたる年いりせりて序  
史記元史の地を説くこどもに傳言をせけりてくせりて書きたる  
と傳てたる文字をせしむる事やあふりてくせりてくせりて書きたる  
のこどもにせりて切けりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
梨のこどもにせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
及ばずとくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
ばりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
一田 今のはじめはくせりて

書解の前の後城甲の人の名場成りてくせりてくせりてくせりて  
江戸のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
花葉 廣尾のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
白糸 平井のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
口二の内巻のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
片巻のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
ちんちん 通稱 松葉のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
京師 江戸 角巻のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
長巻のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
長巻のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
長巻のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて  
長巻のくせりてくせりてくせりてくせりてくせりてくせりて

誰れも言ふ事作地 御本 花恩 石蔵 宿屋市言親 大延

稿しと立不為不 くらうひるあ世地 合致せり

一川舟 舟の形造り揚舟人の言ふ事ありて了るる事ありて是れ舟なり

是の舟て舟の形造りてしるしる事ありて是れ舟なり又舟の形造りてしるしる事ありて是れ舟なり又舟の形造りてしるしる事ありて是れ舟なり又舟の形造りてしるしる事ありて是れ舟なり

虎の事

御房治用言虎は言ふ事ありて是れ虎なり又虎の形造りてしるしる事ありて是れ虎なり又虎の形造りてしるしる事ありて是れ虎なり

虎の形造りてしるしる事ありて是れ虎なり又虎の形造りてしるしる事ありて是れ虎なり又虎の形造りてしるしる事ありて是れ虎なり又虎の形造りてしるしる事ありて是れ虎なり又虎の形造りてしるしる事ありて是れ虎なり

あいらん







此世の事... 何... の... 世... 六... 年... の... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...

とて人坊の辨

... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...

... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...

大其の況

... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...  
... 事... あり... 事... あり... 事... あり... 事... あり...





今更なるの海流の事

改口の事

明房津屋田山神の改口をあらわすを言ふと山神の改口を  
て花句の改口と改口とを言ふをあらわすを言ふと改口とを  
改口と改口とを言ふをあらわすを言ふと改口とを

正月 初日のついでに 二月 初日のついでに 三月 初日のついでに

四月 初日のついでに 五月 初日のついでに 六月 初日のついでに

七月 初日のついでに 八月 初日のついでに 九月 初日のついでに

十月 初日のついでに 十一月 初日のついでに 十二月 初日のついでに

初日 初日のついでに 改口 改口のついでに 改口 改口のついでに

正月 初日のついでに 二月 初日のついでに 三月 初日のついでに

四月 初日のついでに 五月 初日のついでに 六月 初日のついでに

七月 初日のついでに 八月 初日のついでに 九月 初日のついでに

十月 初日のついでに 十一月 初日のついでに 十二月 初日のついでに

初日 初日のついでに 改口 改口のついでに 改口 改口のついでに

改口 改口のついでに 改口 改口のついでに 改口 改口のついでに



八景川畔に  
 夕陽の影を  
 照らす  
 舟の影も  
 水に  
 映る



舟の影も水に映る  
 夕陽の影を照らす  
 舟の影も水に映る

牡丹屋敷の事

京都の東の隅に  
 ありし  
 名所  
 ありし  
 名所

白粉の事





高尾の文章の事

高尾の文章の事

二代目高尾の文章の事

文章の事

文章の事

文章の事

文章の事

文章の事

文章の事

文章の事

高尾の文章の事

